

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(3)	家族や行政担当者、地域住民等の会議参加に向けて、継続的な働きかけを行うとともに、議事録の整備が求められる。	メンバーの員数を増やし、より有意義な会議にしていく。議事録は、運営推進会議発足時からすべて整備し、保存している。	御家族や、地域で役割を担っている方々に、声をかけ参加を促していく。	12ヶ月
2	(5)	身体拘束について、職員が理解を深めるよう研修や勉強会を実施するとともに、その必要性や支援内容を再考し、検討した過程を記録する等、書類の整備が求められる。	職員全員が、身体拘束を理解したうえで、介護にあたる。	マニュアルはあるが、勉強会等は不足しているため、行っていく。書類の整備に関しては、書式は用意しているが、身体拘束を行っていないため、記入している書類は存在しない。	3ヶ月
3	(13)	アセスメントは、ADL中心で、生活歴や興味あるものや好みのもので記載は見られない。また主訴と支援目標の乖離がみられる。生活歴や趣味、好きなもの等の把握を行い、より多角的観点からの本人本位の支援を期待したい。	ADLのみを中心に考えるのではなく、本人様の希望・要望をくみ取り、メンタル面まで確実にカバーできるような介護計画としていく。	御本人・御家族からの聞き取りや、日常生活の中での会話の内容から情報収集を行い、アセスメントを行っていく。そして、介護計画に反映させていく。	12ヶ月
4	(18)	リスク回避を重視するあまり、一部に不適切と思われる支援の場面もあり、今後の改善が求められる。	利用者様1人1人に合った間違いのないケアを、確実に行っていく。	利用者1人1人に対するベストであろうと思えるケアを、試行錯誤しながら探していく。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。